



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

2013年9月1日(日) 第722号

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎ 03-3202-5398
 発行人/金 武士・編集人/洪 性完
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 info@kccj.jp (総会事務局)

〈全国青年連合会〉 第64回 全国青年夏期修養会開催



去る8月14日(水)～17日(土)、長野県白馬村マウントヨーデルにて、第64回 全国青年夏期修養会が行われた。関東、中部、関西、西部の全国から41名の青年が集い、共に濃く恵みに満ちた三泊四日を過ごした。例年に比べ参加者数は少なかったものの、初参加者が非常に多く、新たな若い世代の風を感じた。

主題は「連帯をもって」/副題「キリスト教を携えて「私」から「私たち」へ」の下で、1日目は、長野教会の崔和植牧師が「貯水池のような青年になろう」という説教題で開会礼拝をした。その後、金在源代表は発題を通して、1人の青年の半生との中でぶつかった問題、在日として生きる上での矛盾、信仰とは教会とは何だろうかという疑問等について、その思いを語った。

2日目は、全協50周年特別企画として、全協OBの金秀男氏、梁陽日氏、金相勲氏を講師に迎えて「全協50年の歩み」をリレートーク形式で話した。全協がこれまで取り組んで来た指紋押捺反対運動や同性愛者差別問題、強制連行の歴史を学んだ。難しい内容ながらも真摯に耳を傾ける青年の姿が印象的で、その後の分団ワークでも活発な意見交換が行われた。

その後は全協50周年の節目を迎えるに当たり、「10年後の教会を考える」ことで、現在の教会の10年後にも残っていて欲しい部分と、こういう教会になって欲しい、という希望をチームごとに話し合い、自分にとって教会がどのような存在であるのかを考える機会を持つことができた。

夜は8・15(パリイ)礼拝を行い、戦争で傷ついた韓国・朝鮮の人々をおぼえて祈るとともに、一世のハルモニを追ったドキュメンタリーと三世の青年が在日としてのアイデンティティを模索する映画を鑑賞した。

3日目は、尹善博牧師による聖書プログラムである「～聖書を語ろう!～」を行い、夜は夏修恒例のスタンツ発表があり、この3日間の中で学び感じたものを形にして表現した。どの分団も見応えのあるものばかりで、青年たちがよき交わりの中で意見交換を充分に行うことができていた。

最終日は夏修の振り返りを全体で行い、お別れ会として二人一組になって言葉を掛け合ったが、涙を流して別れを惜しむ青年たちの姿が印象的だった。最後は、京都教会の林明基牧師による「キリスト者として日本で生きる」というメッセージをもって閉会礼拝を行った。

各地方にそれぞれ帰るその時まで、別れを惜しみ、再会の約束をしてそれぞれの帰途についた。青年同士が語り合い共有し合う四日間は本当に濃密で、充実したものとなった。

「全国の信徒の皆様と牧師からの祈りとご支援によって夏修を開催することができたことに深く感謝します」。

(報告:朱美和)

第52回 定期総会 召集公告

在日大韓基督教会 第52回定期総会を 総会憲法第13章(総会)第60条(定期総会組織)、第61条(定期総会召集)と総会規則第2章(定期総会)、第3章(総代)第3条(総代及び準総代)、に基づいて次のように召集します。

1. 主題:「聖霊によって証しする教会」
(ロマ9章1節)
2. 日程:2013年10月14日(月)11時～
16日(水)15時
3. 会場:在日大韓基督教会 名古屋教会
(名古屋駅桜通口 徒歩10分)
〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-39-11
☎ 052-541-1980 / FAX 052-541-1982

※「総代・準総代の交通費・宿泊費は各地方会が負担し、女性会・青年会代表はその機関が負担する」(総会規則 第3章第3条4項)。
 交通費は、プール制ではありません。

2013年08月01日

在日大韓基督教会 総会長 金武士
 書記 権寧国
 総幹事 洪性完

<第10回 韓国・日本連合> 異端対策セミナー開催



去る、6月20日(木)、21日(金)に韓国ソウルの基督教100

周年記念館において、2013年日本・韓国連合異端似而非対策セミナーが開催された。午後2時からにはじまった開会礼拝は、朴도현牧師(総会異端似而非対策委員会(以下、対策委)書記)の司会で金성우牧師(対策委会計)の祈祷後、崔기학牧師(対策委委員長)が「聖なる butterfly 効果」(ヨブ記8:5-7)と題して説教した。

崔牧師は、日本(26名)と韓国からの参加者(24名)に感謝の挨拶をしながら、異端の活動が蝶から蛾になるほど大きいと言ひ、異端からの被害者を癒すことも大事だが予防がもっと重要であると述べた。また、今現在韓国では130個位の異端集団があり、会員は100万人以上であると報告した。さらに、「正統教団が力を合わせて異端対策をすべきであったがそうではなかった」ことを指摘して、今回のセミナーを通して「悪いバターフライから聖なるバターフライになって行く」ことが確認できるようにして行こうと語った。

引き続き、全国の各老翁からの参加者と日本の各教団(日本基督教団、日本カトリック中央協議会、日本聖公会、日本バプテスト連名、在日大韓基督教会)と個人(元統一協会信者、元信者の家族、弁護士4名)として参加した人たちの紹介があった。

その後、탁지일教授(釜山長神大、総会異端似而非対策委専門委員)が「韓日異端似而非の現況と展望」という題で第一講演を行った。卓教授は「韓国の異端似而非団体の世界化が顕著である」ことを示し、日本では新天地、다락방、救援派、큰 믿음教会、統一教会などの活動が注目される。

そして、最近の異端の傾向は、女性がメシア(キリスト)として登場していることが特徴であると言った。その中で、神さまの教会(하나님의 교회)の世界的な拡散と日本での伝道について、新天地(신천지)と大きな信仰の教会(큰 믿음 교회)について詳しく報告した。

第二講演は、元統一協会の被害者である日本人女性が自らの体験談を踏まえて、韓国人男性との結婚と離婚に至るまでの被害状況を詳しく証言した。10年間苦勞した生活と結婚と離婚に至るまでの5年間の証言を通して、未だに残っている後遺症のことを述べながら、「被害者は、自分だけではなく、相手の韓国人の男性とその家族も被害者である」と涙ながら訴えた。その後、質疑討議では様々な形での熱い話し合いが続いた。その中で、摂理(JMS)と東京ヨハネ教会(前、ヨドバシ教会)についても多くの質問と説明がなされた。

二日目は、韓国基督公報社を探访して、韓国長老会(統合)の教団機関紙の異端対策の内容と活動を聞いて視察した。引き続き、CBS放送局をに行き、「新天地(신천지)OUT」の重点内容を学びながら放送局を見学した。その後、ハンヨン教会(한영교회, 전덕열牧師:92会期異端似而非対策委員長)を訪問して教会案内や昼食の接待を受けた。

この異端似而非対策セミナーは、2004年からはじまり、今年で第10回目を迎えた。在日大韓基督教会からは、韓国での教役者研修会の翌日から開かれたが、洪性完牧師(総幹事)、洙文洪牧師(小倉教会)、許伯基牧師(つくば東京教会)、曹泳石牧師(盤石教会)が参加した。

(報告:編集部)

<在日韓国人問題研究所 R A I K > 創立40年と在日韓国人社会の未来

1 R A I Kの創立

1974年、在日韓国人問題研究所(Research-Action Institute for the Koreans in Japan、以下 R A I K)は、在日大韓基督教会(K C C J)の直属の研究所として設立された。

R A I K 創立の背景は、次のようなものである。祖国の分断の長期化、在日同胞社会の中での一世から二世への世代交替、そして戦後数十年たっても日本の歴史責任は不問にされたままであり、在日同胞に対する制度的・社会的差別も何ら是正されていない状況が続いていた。一方、こうした閉塞した状況を打ち破るべく、朴鐘碩氏の就職差別に対する撤廃運動を嚆矢として、在日二世の青年たちを中心とする地域運動、民族差別撤廃運動が各地で始められた。これは、それま

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国 Y M C A は皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル: 東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様~200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
 ・スペースYホール: 200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 ・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
 ・Y M C A 東京日本語学校【3ヶ月~2年、短期研修】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー ¥200 (宿泊者価格)		

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】
 在日本韓国 Y M C A <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
 東京韓国 Y M C A アジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5 ☎03-3233-0611
 関西韓国 Y M C A アジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道 3-14-15 ☎06-6981-0782

での在日同胞組織による政治運動とは違った、新しいスタイルと新たな質の社会運動であり、文化運動であった。

こうした背景の中から R A I K が生まれ、R A I K の主要な活動も、この新しい潮流の運動センターとしての役割を担うことにあった。在日韓国人に対する就職差別、公務員・公立学校教員採用時の国籍条項を撤廃する取り組み、社会保障、民族教育を求める取り組み、子ども会活動など、各地の地域運動を R A I K が結んでいった。

このような民族差別撤廃の闘いは、在日同胞民族組織に先んじて開始された。なぜなら、闘いの担い手が在日二世であったため、自由な発想で闘いに取り組みえたこと、また、その闘いに日本人が積極的に参加したことによる。

そして 1980 年代に入ってから、指紋拒否・外国人登録法抜本改正運動が、燎原の火のように広がった。1985 年、指紋捺捺を拒否・留保した在日韓国人は 1 万人を超えた。在日二世・三世が拒否運動の先頭に立ち、また、それを支援する日本人の市民運動体も全国各地に作られていった。在日韓国人と日本人、教会と市民団体、各地域と全国、日本と世界(韓国やアメリカ、カナダなどからの支援)を結んでいくネットワークの中心を、R A I K が担った。

こうした中で 1987 年、R A I K を事務局として、プロテスタント・カトリック 12 教派・団体と、全国 8 地域のキリスト教団体(外キ連)を網羅して、「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会」(外キ協)が結成された。このことは、日本のキリスト教界におけるエキュメニカル運動、日本社会におけるマイノリティ人権運動の一つの到達点を示すものである。

2 R A I K の活動課題

R A I K は 1988 年から『R A I K 通信』を発行して、日本と海外の教会や人権 N G O に発信し、在日韓国人が直面している諸問題を訴えてきた。1990 年には、人権 N G O が共同執筆して国際人権ハンドブック『国際人権と在日韓国・朝鮮人』を発行するとともに、R A I K の中に国際人権部会を設け、国際人権規約や人種差別撤廃条約、子どもの権利条約など国際人権条約を活用すべく、他の人権 N G O と共同の取り組みを始めた。

1992 年 2 月 9 日、R A I K は東京弁護士会から「人権賞」を受賞した。これは、1980 年代から 90 年代にかけて澎湃として湧き起こった、在日韓国人をはじめ、マイノリティの人権獲得活動に対する日本社会の積極的評価である。

そして 1990 年代以降、在日韓国人をめぐる状況は、在日三世・四世の時代に入る一方、1970 年代～80 年代の運動の成果(在日韓国人の人権意識の覚醒と、日本社会の人権規範確立への志向)が、さらに多くの課題を日本社会に提起した。韓国をはじめアジアからの移住労働者、国際結婚による移住者の急増、そして未解決のまま残されている戦後補償問題である。

R A I K は、このようなさまざまな課題に取り組むと同時に、それぞれの課題の固有性と共通性を検証し、個々のマイノリティ解放運動の横断的結合と国際ネットワークを作ることに力を傾けた。

3 面→

R A I K は現在、次のような活動を行なっている。

(1) 資料センターとしての活動 在日韓国人と移住労働者・移住者・難民の人権に関する文書資料・映像資料を収集し、教会や市民団体、弁護士、研究者、報道関係者に資料提供をおこなう。

(2) 出版センターとしての活動 在日韓国人と移住労働者・移住者・難民の人権に関する最新情報と論文をまとめて、『R A I K 通信』として編集。毎号 400 部を発行

(3) 運動センターとしての活動

①「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」(外キ協)の事務局 1980 年代、指紋拒否・外登法抜本改正をめざす全国各地のキリスト者・教会の運動を背景に、1987 年に結成。毎年 1 月に全国協議会と全国集会を開催。今年で第 27 回を数える。また、「外国人の人権/日本の戦後補償」を主題に、韓国の教会と国際シンポジウムを 16 回開催すると共に、日本・韓国・在日教会の共同ブックレットを発行し、2008 年からは毎年夏、「多民族・多文化共生キリスト者青年現場訪問プログラム」を実施し、日本人青年と在日韓国人青年を韓国に派遣。

②「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」の運営委員全国のキリスト教学校の教員を中心に、毎年 8 月、「全国キリスト教学校人権教育セミナー」を開催。

③「外国人権法連絡会」の共同事務局 2004 年 10 月の日本弁護士連合会の人権擁護大会シンポジウムに参加した弁護士、人権 N G O、キリスト教関係団体、研究者が中心になって、「外国人・民族的マイノリティの人権基本法」「人種差別撤廃法」の制定と「国内人権機関」の実現をめざすネットワークとして 2005 年 12 月、「外国人権法連絡会」を結成。毎年、『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書』を発行。

④「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」の運営委員全国各地で移住労働者・移住者の人権問題に取り組む市民団体・労組・キリスト教関係団体が結集して 1997 年に結成。全国各地の取り組みの情報交換を行なうと共に、移住労働者・移住者が直面している課題と在日韓国人の課題との共有化と連携をめざす。2012 年 7 月、外登法が廃止されて「改悪」入管法・入管特例法・住民基本台帳法が実施されたが、『中長期在留者のための Q & A』『特別永住者のための Q & A』『非正規滞在者・難民申請者のための Q & A』日本語版・多言語版(中国語/韓国語/タガログ語/タイ語/ビルマ語/ベトナム語/英語/ポルトガル語/スペイン語)を発行すると共に、全国 100 自治体に対するアンケート調査を実施。また、各地の移住者コミュニティをまわって、学習会を 34 回開催。

⑤「人種差別撤廃 N G O ネットワーク」の世話人 近年、日本社会に跋扈しているヘイトスピーチに対して、他の人権 N G O、弁護士、国会議員、市民とともに、国会集会や国際人権機関への訴えなど、あらゆる行動を展開。

4 面→

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

(4) 外国人被災者に対する支援活動

2011年3月11日、東日本大震災で被災した青森・岩手・宮城・福島・茨城の5県には、約9万人の在日外国人が暮らしていた。そのうち、災害救助法が適用された市・町・村に住む外国人は75,281人で、中国2万7千人、韓国・朝鮮1万2千人、フィリピン9千人……と続く。

地震一津波一原発崩壊から2年になろうとする現在でも、外国人被災者に関する情報は断片的なものでしかない。それは、外国人被災者の居住地が5県にわたり、また154の市・区・町・村のあまりにも広範囲に及ぶこと、彼ら彼女らのほとんどがコミュニティを形成することなく地域社会の中で孤立して生活してきたこと、すなわち日本社会において周縁化されてきたからである。

「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」は2011年9月、地元の教会と市民団体と共に「外国人被災者支援プロジェクト」を立ち上げ、2012年4月からは、宮城県仙台市に「外国人被災者支援センター」を設置した。そのセンターにRAIKから実務責任者を派遣して、外国人実態調査と面接調査を行ないながら、支援活動を続けている。なお、被災地において外国人支援を続けている団体は、ここだけである。

3 RAIK 40周年

RAIKは2014年2月、創立40周年を迎える。「在日韓国人」研究所は、「日本とアジアにおけるマイノリティ」研究所へと転換を果たす。すなわち、そのマイノリティ研究所は、在日韓国人の人権をはじめ、移住労働者など他のマイノリティとの交流を通して、その課題を担う機関である。そのために、以下の事業を準備中である。

1) 「在日韓国人に関する<解放後>基本資料・文献のリストと解題」の作成。

2) 連続講座「<在日>104年」の共催(在日本韓国YMCA/RAIK)。

3) シンポジウム「RAIKの40年と、在日韓国人社会の未来」の主催。

(報告:RAIK 所長 佐藤信行)

韓日対照讃美歌

1冊:2,000円

※総会教会価格。黒色のみ。総会事務所 03-3202-5398

<西南地方会> 折尾教会
新礼拝堂 奉献礼拝挙行



2013年7月21日午後4時から福岡県遠賀郡水巻町猪熊の地で、折尾教会の鄭守煥担任牧師の司式により奉献礼拝(献堂式)を献げた。

まず、金明均牧師(西南地方会会長・福岡中央教会)から、「湧き出でる命の水」(エゼキエル書47章1-12節)という題目でメッセージがあった。その後、宋聖宰名誉長老(建築委員長)から鄭守煥担任牧師に新会堂の鍵が手渡され、同牧師は新会堂が神に奉献されたことを宣言した。

また朱文洪牧師(西南地方会副会長、小倉教会)と日本基督教団北九州地区委員長である久多良木和夫牧師(北九州復興教会)から祝辞がのべられ、鄭守煥牧師の祝祷をもって奉献礼拝を終えた。礼拝後に愛餐の時を持った。

奉献礼拝出席者は、西南地方会と日本基督教団九州教区をはじめ、新会堂のために祈りを合わせてくださった近隣の諸教会の兄弟姉妹が約130名、そして折尾教会教人の約20名と合わせ約150名であった。

「主なる神が新会堂建築をゆるし、また奉献礼拝の時まで守り導いてくださったことを感謝するとともに、祈りと尊い献げ物によって支えて下さった在日大韓基督教会諸教会ならびに日本基督教団九州教区諸教会、そして近隣諸教会の兄弟姉妹の皆さまに深い感謝の意を表します」。

(報告:鄭守煥、折尾教会)



クリスチャン教会・企業検索サイト

レボト・ジャパン

Open!!

10月01日

リニューアル

広告募集開始



「レボト・ジャパン」
代表 五塚 誠

Tel : 090-3945-3373
e-mail : info@rehoboth.jp

レボトジャパン

検索





재일대한기독교회
선교 100-110 주년 표어
감사의 백년, 소망의 백년
(데살로니가전서 5:18)

한글판
fukuinshinbun@kccj.jp (복음신문)
info@kccj.jp (총회사무국)

<전국청소년연합회> 제 64 회 전협, 전국 여름수양회 개최



지난 8 월 14 일 (수) 부터 17 일 (토) 까지 나가노현 하쿠바촌 마운트요들 (長野 白馬村マウントヨードル) 에서 제 64 회 전국청소년연합회 (전협) 여름 수양회가 열렸다.

관동, 중부, 관서, 서부 등 전국에서 41 명의 청년들이 함께 모여 깊이 있고 은혜로 충만한 3박 4 일을 보냈다. 그러나 예년에 비해 참가자 수는 적었다. 하지만 첫 참가자들이 많아서 새로운 젊은 세대의 바람을 느꼈다.

수양회 주제는 <연대를 가지고 / 부제 “기독교를 붙잡고 ‘나’ 에서 ‘우리’ 로” > 였는데, 첫째 날은 나가노교회 최화식목사가 “저수지 같은 청년이 되자” 라는 제목으로 설교하면서 개회 예배를 하였다.

그리고 김재원대표는 발제를 통하여 한 사람의 청년의 삶과 그 안에서 부딪친 문제, 재일 한국인으로 살아가는데 있어서의 모순과 신앙과 교회는 무엇일까 하는 의문 등에 대한 생각을 전했다.

둘째 날은 전협 50 주년 특별 기획으로 전협 OB 인 김수남, 양석일, 김상훈씨를 강사로 맞이하여 “전협 50 년의 발자취” 를 릴레이 토크 형식으로 들었다. 각자는 전협이 지금까지 노력해 온 지문날인 반대운동과 동성애 차별문제, 강제 연행의 역사를 전했다. 어려운 내용이었지만 진지하게 귀를 기울이는 청년의 모습이 인상적이었다.

다음은 전협 50 주년을 맞이하여 “10년 후 교회를 생각” 하였는데, 현재의 교회가 10 년 후에도 남아 있었으면 하는 부분과 이런 교회가 되어 줬으면 하는 희망을 각 팀 마다 논의하므로 자신에게 교회는 어떤 존재인지를 생각할 기회를 가졌다.

그날 밤에는 8.15 예배를 하고, 전쟁에서 부상당한 한국과 조선 사람들을 기억하면서 기도와 더불어 동포 1 세 할머니들에 대한 다큐멘터리와 3 세의 청년들이 재일동포로서의 정체성을 모색하는 영화를 감상하였다.

셋째 날은 윤선박목사에 의한 성경프로그램인 “성경을 말하자!” 에 이어서 밤에는 여름 수양회를 뒤돌아 봄과 동시에 3 일간 배우고 느낀 것을 형태로 만들어서 서로 발표하고 표현하였다. 어떤 분 단도 참석해 볼만한 가치가 있었으며, 청년들의 깨끗한 교제 속에서 의견 교환을 충분히 할 수 있었다.

마지막 날은 여름 수양회 전체를 뒤돌아 보고, 송별회를 시작하면서 두 명씩 짝을 지어서 대화를 하였는데, 눈물을 흘리며 이별을 아쉬워하는 청년들의 모습이 매우 인상적이었다.

마지막으로 교토교회의 임명기목사가 “그리스도인으로서 일본에서 산다” 라는 제목으로 설교를 하므로 폐회예배를 마쳤다. 제각기 각 지방으로 돌아가는 그때까지 이별을 아쉬워하면서 재회를 약속하고 각각 돌아 가므로, 청년들끼리 서로 대화하고 서로 공유한 나흘간은 정말 진하고 충실한 수양회였다.

“전국의 신도 여러분과 목사님들의 기도와 지원에 의해 여름 수양회를 개최할 수 있었던 것에 대하여 깊은 감사를 드립니다.”

(보고 : 주미화)

제 52 회 정기총회 소집공고

재일대한기독교회 제 52 회 정기총회를 총회헌법 제 13 장 (총회) 제 60 조 (정기총회조직), 제 61 조 (정기총회소집) 과 총회규칙 제 2 장 (정기총회), 제 3 장 (총대) 제 3 조 (총대 및 준총대) 에 의거하여 다음과 같이 소집합니다.

1. 주제 : 「성령을 힘 입어서 증거하는 교회」
(로마 9 장 1 절)
2. 일정 : 2013 년 10 월 14 일 (월) 11 시 ~ 16 일 (수) 15 시
3. 회장 : 재일대한기독교회 나고야교회
(나고야역 사쿠라토오리구치 도보 10 분)
〒 450 - 0002 名古屋市 中村区 名駅 2 - 39 - 11
☎ 052-541-1980 / FAX 052-541-1982

※ 「총대 · 준총대의 교통비 · 숙박비는 각지방회가 부담하고 여성회 · 청년회대표는 그 기관이 부담한다」 (총회규칙 제 3 장 제 3 조 4 항).

2013 년 08 월 01 일

재일대한기독교회 총회장 김무사
서기 권영국
총간사 홍성완

<제 10 회 한국 일본 연합 > 이단 사이버 대책 세미나



지난 6월 20일 (목)과 21일 (금)에 한국교회 100주년 기념회관에서 제 10회

한일 연합 이단 사이버 대책세미나가 개최되었다. 오후 2시부터 시작된 개회예배는 박도현목사 (장로교 통합 총회 이단사이비대책위원회 서기, 이하 대책위)의 사회로 시작되어 김성수목사 (대책위 회계)의 기도 후에 최기학목사 (대책위 위원장)가 [성스러운 나비효과] (욥기 8:5-7)라는 제목으로 설교하였다.

최목사는 설교를 통하여 일본 (20명)과 한국의 참가자 (24명)에게 감사의 인사를 전하면서 이전 이단들의 활동이 나비에서 나방이 될 정도로 크게 되었으므로 이단에서의 피해자들을 돕고 치유하는 것도 중요하지만 먼저 예방을 하는 것이 더욱 중요하다고 말했다. 또한 지금 현재 한국에는 130여 개의 이단 집단이 있으며, 회원은 100만 명 이상이라고 보고하였다. 나아가 [정통 교단들이 힘을 합하여 이단 대책을 해야 했는데 그러지 못했다]고 반성하면서 이번 이단 사이버 대책세미나를 통하여 [나쁜 나비에서 성스러운 나비가 되어가는 것을 확인할 수 있도록 해 나가자]고 했다.

이어서 전국의 각 노회에서 참가한 참가자들과 일본의 각 교단 (일본기독교단, 일본 카톨릭 중앙협의회, 일본 성공회, 일본 바티스트연맹, 재일대한기독교교회 등)에서 참가한 참가자들과 개인 (전 통일교 신자, 전 신자의 가족, 변호사 4명) 적으로 참가한 사람들의 소개가 있었다.

이어서 탁지일교수 (부산 장신대, 총회 이단 사이버대책위원회 전문위원)가 '한일 이단 사이버 현황과 전망'이라는 제목으로 첫 강연을 하였다. 탁교수는 [한국의 이단 사이버 단체들의 세계화가 뚜렷하다]는 것을 영상을 통하여 보여주면서 일본에서는 신천지, 다락방, 구원파, 큰 믿음 교회, 통일교 등의 활동이 주목된다.

그리고 최근의 이단 동향은 여성이 메시아로 등장하고 있는 것이 특징이라고 했다. 그 중에서 하나님의 교회의 세계적 확산과 일본에서의 전도에 대해서, 또한 신천지와 큰 믿음 교회에 대하여 자세히 보고했다.

두 번째는 이전에 통일교 피해자였던 일본인 여성이 자신의 경험담을 바탕으로 한국인 남성과의 결혼과 이혼에 이르기까지의 피해 상황을 상세하게 증언했다. 10년간 고생한 통일교 생활과 한국 남성과의 결혼과 이혼에 이르기까지의 5년간의 증언을 통해 아직도 남아있는 후유증을 고백하면서 [피해자는 자신뿐만 아니라 상대방인 한국인 남성과 그 가족도 피해자이다]라면서 눈물을 흘리며 호소했다. 이어진 질의와 토론에서는 다양한 형태로 뜨거운 토론이 전개되었다. 그 중에 섬리 (JMS)와 동경 요한교회 (전, 요도바시 교회)에 대해서도 많은 질문과 설명이 이루어졌다.

둘째 날은 한국 기독교공사를 탐방하여 한국 장로회 (통합) 교단 기관지의 이단 대책에 대한 활동과 내용을 듣고 시찰하였다. 이어서 CBS 방송국으로 가서 '신천지 OUT'에 대한 활동을 배우면서 방송국을 견학했다. 또한 한영 교회 (전덕열 목사, 92회기 이단사이비대책위원장)을 방문하여 교회 안내와 더불어 점심 접대를 받았다.

이 이단 사이버 대책 세미나는 2004년부터 시작되어 올해로 제 10회째를 맞이했다. 재일대한기독교교회에서는 한국의 교역자 연수회가 끝난 다음날부터 열렸는데, 홍성완 목사 (총간사), 주문홍목사 (코쿠라교회), 허백기목사 (쯔쿠바동경교회), 조영석목사 (반석교회)가 참여했다. (보고 : 편집부)

<제일 한국인 문제연구소 RAIK > 40년과 제일 한국 사회의 미래

1. RAIK 창립

1974년 2월, 재일한국인문제연구소 (Research-Action Institute for the Koreans in Japan 이하 RAIK)는 재일대한기독교교회 직속 연구소로서 설립되었다. RAIK 창립배경은 다음과 같다. 조국분단의 장기화, 재일동포사회 안에서 1세에서 2세로의 세대교체, 그리고 전후 수십 년이 지나도 일본의 역사책임은 불문에 붙여진 채 재일동포에 대한 제도적·사회적인 차별이 조금도 시정되지 않는 상태가 계속되고 있었다.

한편, 이러한 막힌 상황을 타파해야 할 시점에 박종석씨의 취직 차별에 대한 철폐운동을 시작으로 재일 2세 청년들을 중심으로 한 지역운동, 민족차별 철폐운동이 각지에서 시작되었다. 이는 지금까지의 재일동포조직에 의한 정치운동과는 다른 새로운 성격의 사회운동이며 문화운동이었다.

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャンゴ・カヤ gum・舞踊】・韓国語講座・各種子どもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】
関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5 ☎03-3233-0611
関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道 3-14-15 ☎06-6981-0782

이러한 배경 속에서 RAIK 가 태어났으며, 주요활동도 이러한 새로운 조류의 중심지로서의 역할을 감당하는데 있었다. 또한 RAIK 는 재일한국인에 대한 취직차별, 공무원·공립학교 교원 채용시의 국적조항을 철폐하는 운동에 힘을 기울이고, 사회보장, 민족교육을 요구하는 운동에도 힘을 쏟으며, 또한 어린이회 활동 등 각 지역운동을 이어 나갔다.

이와 같은 민족차별철폐 투쟁은 재일동포 민족조직보다 앞서 시작되었다. 왜냐하면 투쟁을 이끌어 가는 사람이 재일 2 세였기 때문에 자유로운 발상으로 투쟁에 대처할 수 있었으며, 또 그 투쟁에 일본인이 적극적으로 참가했기 때문이다.

그리고 1980 년에 들어서면서부터는 지문거부·외국인등록법의 발본적인 개정운동이 요원의 불길처럼 번져 나갔다. 1985 년 지문날인을 거부하고 보류한 재일한국인이 1 만 명을 넘었다. 재일 2 세와 3 세가 거부운동의 선두에 서고 또한 이를 지원하는 일본인 시민운동체도 전국 각지에서 만들어졌다. 재일한국인과 일본인, 교회와 시민단체, 각 지역과 전국, 일본과 전세계 (한국이나 아메리카, 캐나다 등으로부터의 지원) 을 이어가는 네트 워크의 중심을 RAIK 가 담당하였다.

이러한 중에 1987 년 RAIK 를 사무국으로 하여 프로테스탄트, 카톨릭 12 교파와 단체들이 전국 8 지역의 기독교단체 (외기련) 를 망라하여 「외등법 문제에 대처하는 전국기독교 연합회의」 (외기협) 가 결성되었다. 이는 일본 기독교계에 있어서의 에큐메니컬 운동, 일본사회에 있어서의 마이너리티 인권운동의 하나의 도달점을 제시하는 것이다.

2. RAIK 활동과제

RAIK 는 1988 년부터 『RAIK 통신』 을 발행하여 일본과 해외교회 그리고 인권 NGO 에게 발신하여 재일한국인이 직면하고 있는 여러 문제를 호소하여 왔다. 1990 년에는 인권 NGO 와 공동 집필하여 국제인권핸드북 『국제인권과 재일한국·조선인』 을 발행함과 동시에 RAIK 안에 국제인권부회를 설치하여 국제인권규약이나 인종차별철폐조약, 어린이 권리조약 등 국제인권조약을 활용할 수 있도록 다른 인권 NGO 와 공동으로 대처하는 활동을 시작하였다.

1992 년 2 월 9 일 RAIK 는 동경변호사회로부터 「인권상」 을 수상하였다. 이는 1980 년대부터 90 년대에 걸쳐서 팽배하게 끊어오른 재일한국인을 비롯한 마이너리티의 인권획득 활동에 대한 일본 사회의 적극적인 평가이다.

그리고 1990 년대 이후 재일한국인을 둘러싼 상황은 재일 3 세·4 세 시대로 들어가는 한편 1970-1980 년대의 운동의 성과 (재일한국인의 인권의식의 각성과 일본사회의 인권규범확립을 지향함) 가 더욱 많은 과제를 일본사회에 제기하였다. 한국을 비롯하여 아시아로부터의 이주노동자, 국제결혼에 의한 이주자의 급증, 그리고 미해결된 채로 남겨져 있는 전후 보상문제이다.

RAIK 는 이와 같은 여러 가지 문제에 대처함과 더불어 각각의 과제의 고유성과 공통성을 검증하고 개개의 마이너리티 해방운동의 횡단적 결합과 국제 네트워크를 만드는 일에 힘을 기울였다.

RAIK 는 현재, 다음과 같은 활동을 하고 있다.

- 1) 자료센터로서의 활동재일한국인과 이주노동자·이주자·난민의 인권에 관한 문서자료·영상자료를 수집하여 교회나 시민단체, 변호사, 연구자, 보도관계자에게 자료제공.
- 2) 출판센터로서의 활동재일한국인과 이주노동자·이주자·난민의 인권에 관한 최신정보와 논문을 정리하여 『RAIK 통신』 을 편집 (매 400 부 발행).
- 3) 운동센터로서의 활동
 - (1) 「외국인주민기본법재정을 요구하는 전국기독교연락협의회」 (외기협) 사무국 1980 년대, 지문거부·외등법 발본개정을 지향하는 기독교인·교회의 운동을 배경으로 1987 년에 결성. 매년 1 월 전국협의회와 전국집회를 개최. 금년으로 27 회를 헤아린다. 또 「외국인의 인권 / 일본의 전후 보상」 을 주제로 한국교회와 국제 심포지움을 16 회 개최하며 일본·한국·재일교회의 공동 부클렛 (booklet) 을 발행하고, 2008 년부터는 매년 여름 「다민족·다문화공생 기독교 청년 현장방문 프로그램」 을 실시하여 일본인 청년과 재일한국인 청년을 한국으로 파견.
 - (2) 「전국기독교학교 인권교육연구협의회」 운영위원 전국 기독교학교 교원을 중심으로 매년 8 월 「전국기독교학교 인권교육세미나」 를 개최.
 - (3) 「외국인 인권법 연학회」 공동사무국 2004 년 10 월 일본 변호사연합회 인권옹호대회 심포지움에 참가한 변호사, 인권 NGO, 기독교관계단체, 연구자가 중심이 되어 「외국인 민족적 마이너리티 인권기본법」 「인종차별 철폐법」 의 제정과 「(일본) 국내인권기관」 의 실현을 지향하는 네트워크로서 2005 년 12 월, 「외국인인권법 연학회」 를 결성. 매년 「일본에 있어서의 외국인·민족적마이너리티 인권백서」 를 발행.
 - (4) 「이주노동자와 연대하는 전국 네트워크」 운영위원 전국 각지에서 이주노동자·이주자의 인권문제에 대처하는 시민단체·노조·기독교관계단체가 결집하여 1997 년에 결성. 전국 각지에서 대처하는 운동에 관한 정보를 교환함과 더불어 이주노동자·이주자가 직면하고 있는 과제와 재일한국인이 안고 있는 과제를 공유화하여 연대를 지향한다. 2012 년 7 월 외등법이 폐지되고 「계약 입관법·입관특별법·주민기본대장법이 실시되었지만, 『중장기 재류자를 위한 Q & A』 『특별 영주자를 위한 Q & A』 『비정규체재자를 위한 Q & A』 일본어판·다국어판 (중국어 / 한국어 / 타가로그어 / 타이어 / 비르마어 / 베트남어 / 영어 / 포르투갈어 / 스페인어) 를 발행함과 더불어 전국 100 자치단체에 대한 앙케이트 조사를 실시. 또한 각지의 이주자 커뮤니티를 방문하여 학습회를 34 회 개최.
 - (5) 「인권차별철폐 NGO 네트워크」 근년 일본사회에 창궐하고 있는 헤이트 스피치에 대해 타 NGO, 변호사, 국회의원, 시민과 더불어 국회집회나 국제인권기관에 소송하는 등, 행동을 전개.

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

4) 외국인 피해자에 대한 지원활동


2011년 3월 11일 동일본대진재로 피해한 아오모리·이와테·미야기·후쿠시마·이바라키 5현에는 약 9만 명의 재일외국인이 살고 있었다. 그 중에 피해구조범이 적용된 시·읍·면에 거주하는 외국인은 75,281명으로 중국 2만 7천명, 한국·조선 1만 2천명, 필리핀 9천명으로 이어진다. 지진—쓰나미—원자력발전소붕괴로부터 2년이 되었지만 현재에도 외국인 피해자에 관한 정보는 단편적인 것밖에 없다. 그것은 외국인 피해자의 거주지가 5현에 걸쳐 있으며 또한 154 시·구·읍·면으로 나누나 광범위하게 이르는 것, 그들 그녀들의 대부분이 커뮤니티를 형성하지 못하고 지역사회 가운데서 고립되어 생활해 온 것, 즉 일본사회에서 주변화되었기 때문이다.

RAIK가 사무국으로써 활동하는 「외국인주민기본법의 제정을 요구하는 전국기독교 연합연락회」(외기협)는 2011년 9월, 그 지방 교회와 시민단체와 더불어 「외국인 피해자 지원프로젝트」를 가동하여 2012년 4월부터는 미야기현 센다이시에 「외국인 피해자 지원센터」를 설치하였다. 그 센터에 RAIK로부터 실무자를 파견하여 외국인실태조사와 면접조사를 하면서 지원활동을 계속하고 있다. 피해지에서 외국인 지원을 계속하고 있는 단체는 이곳 뿐이다.

3. RAIK 40주년

RAIK는 2014년 2월, 창립 40주년을 맞이한다. 「재일한국인문제연구소」는 「일본과 아시아에 있어서의 마이너리티 연구소」로 전환할 것이다. 즉 그 마이너리티 연구소는 재일한국인의 인권을 비롯하여 이주노동자 등 다른 마이너리티와의 교류를 통하여 그 과제를 감당하는 기관으로 탈바꿈할 것이다. 그 때문에 이래와 같은 사업을 준비 중이다.

- (1) 「재일한국인에 관한 <해방 후> 기본자료·문헌 리스트와 해제」작성
 - (2) 연속강좌 「<재일>104년」을 공동개최 (재일본한국 YMCA/RAIK)
 - (3) 심포지움 「RAIK40년과 재일한국인사회의 미래」주최
- (보고: RAIK 소장 사토 노부유키)



한일 대조 찬송가
1권 : 2,000엔
총회 소속 교회와 교인들 가격이며, 흑색 뿐입니다.
총회사무실 (03-3202-5398)

<서남지방회> 오리오교회

새로운 예배당에서 헌당예배



2013년 7월 21일 오후 4시부터 후쿠오카현 옹가군 미즈마키초 (遠賀郡水巻町) 이노쿠마에서 오리오 교회의 정수환담임목사의 사식으로 봉헌예배가 거행되었다.

헌당식은 서남지방회장인 김명균목사 (후쿠오카중앙교회)가 [쏟아 나는 생명의 물](에스겔 47:1-12)이라는 제목으로 설교를 하였다. 그 후에 인 송성제명예장로 (건축 위원장)로부터 정수환담임목사에게 새로운 예배당의 열쇠가 손으로 전해지자 정목사는 새로운 교회가 하나님에게 봉헌된 것을 선언하였다.

그리고 서남지방회 부회장인 주문홍목사 (코쿠라교회)와 일본기독교단 북큐슈지구 위원장인 쿠타라기카즈오목사 (久多良木和夫, 북큐슈 부흥교회)가 축사를 하였다. 이어서 정수환목사의 축도로 헌신 예배를 모두 마치고, 예배 후에는 은혜로운 교제의 애찬을 가졌다.

이 봉헌예배의 참석자는 서남지방회와 일본기독교단 큐슈교구를 비롯하여 새로운 예배당을 위해 기도를 해 온 인근 교회의 형제 자매들을 포함한 약 130명과 본 교회 교인들 약 20명을 포함하여 150명 정도였다.

정수환목사는 [여호와 하나님이 새로운 예배당 건축을 허락하고, 또 봉헌예배 때까지 지키고 이끌어 주신 것을 감사 드리며, 기도와 소중한 헌금과 헌물로 헌신을 다해 주신 재일대한기독교회의 제 교회 및 일본기독교단 큐슈교구의 교회, 그리고 이웃 교회의 형제 자매 여러분께 깊은 감사의 뜻을 전합니다]고 인사하였다.

(보고: 오리오교회, 정수환)



クリスチャン教会・企業検索サイト

レホボト・ジャパン

Open!!

10月01日

リニューアル

Tel : 090-3945-3373
e-mail : info@rehoboth.jp

http://www.rehoboth.jp

広告募集開始

レホボトジャパン

検索

